

研修農場「シントクアユミルク」、「そば調整施設」を新得農協が建設

新得町農業協同組合（太田眞弘組合長）は、昨年6月より建設を進めていた「そば調整施設」と、昨年9月より建設を進めていた研修農場の「株式会社シントクアユミルク（太田眞弘代表取締役）」の両施設の落成祝賀会を3月26日、新得町農協で行い、町や農業関係者、工事関係者など約80人が集まり完成を祝いました。

そば調整施設は、これまで収穫されたそばは、西十勝農業センター（清水町）内の穀類の乾燥調整・貯留施設を小麦などと汎用しており、適期に出荷できなかったことやそばアレルギーの問題で専



そば調整施設

新得町農業の発展に向け2施設が完成

研修農場「シントクアユミルク」、「そば調整施設」を新得農協が建設

用の施設が求められていたことなどにより建設を進めていました。これにより新そばの出荷が今までと比べ約1ヶ月、早期出荷ができる予定です。総事業費は2億4000万円で、国の強い農業づくり交付金事業などを活用しています。

シントクアユミルクは、新規就農希望者を研修生として受け入れ、人材育成をする研修農場としての役割と、地域全体の生乳生産量を確保し、生産力を維持するために建設を進めていました。施設は、自動で搾乳できる搾乳ロボット7台を配置したフリーストール牛舎のほか、哺



シントクアユミルクの牛舎



牛舎内に設置された自動搾乳ロボット

育舎などが整備され、経産牛500頭を飼養し、年間5000トンの生乳出荷を目指しています。総事業費は約17億5000万円で、国の畜産競争力強化対策緊急整備事業などを活用しています。また、搾乳牛の導入資金として、町が3億円の資金貸付を行います。

太田組合長は「そばの早期出荷、さらなる品質向上が図られ、新得のそばの付加価値が高まると考えている。また、研修農場で担い手を育成し、人材の確保を図っていききたい。新得町農業の発展のために努力を重ねていく」と話していました。

サテライト型小規模多機能きらりなど3施設・地域密着型特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘を開設

住み慣れた地域で安心した生活ができる2つの施設がオープン

町社会福祉協議会が屈足地区に



同施設では、デイサービス、ホームヘルプサービス、ショートステイといった高齢者が自宅に住みながら受けられるサービスのほか、身の回りのことは自分でできる高齢者を対象とした高齢者福祉住宅が1人部屋が7部屋、夫婦部屋が1部屋設置されています。部屋の代金はいずれの部屋タイプも家賃・食事代・共益費込みで1人部屋は月額7万5500円、夫婦部屋は月額14万9000円。（冬期間の暖房代などで別途加算あり）

同施設は、4月1日よりオープンしています。



「高齢者福祉住宅ひなた」の1人部屋



社会福祉法人厚生協会（鈴木政輝理事長）は、昨年9月より建設を進めていた地域密着型特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘が完成し3月27日、施設見学会を行い、多くの見学者が来場していました。

同法人が既に運営している特別養護老人ホーム新得やすらぎ荘と聴覚障害者養護老人ホームに併設する形で建設され、総事業費は約5億6200万円で、そのうち国・道・町の補助金が5億5200万円。

同施設は、原則として、新得町に住んでいる常時介護を必要とする

る要介護高齢者が利用対象で、居室は全20室が個室で床暖房、介護用電動ベッドが完備されているほか、耳の遠い方でもわかりやすい情報伝達装置としてフラッシュライトが設置されています。

高畑訓子施設長は「既存の施設との連携も含めスケールメリットもある。慣れ親しんだ新得町で最期の時まで自分らしく過ごせるように、老後の心配がない施設づくりをしていきたい」と話していました。



見学会で施設内の説明を受ける町民の方々

ひとこと手話講座

～No.21～

○助ける



左手の親指を立て、右手で軽く2回たたく

○痛い



5指を折り曲げ、上に向けて震わせる

○危ない



折り曲げた両手の指で胸をたたく